## カエデ雑記

## 奈良場 正 -

## その1 三島郡三島町のカエデ類について

三島町では、平成6年11月から2年余りの歳月をかけ、樹木調査を実施し、平成9年3月「町の名木100選」を選定した。

そのなかではカエデ科では、3種5件が選ばれた。

- ・アカイタヤ:七日市字林割 幹周272cm 樹高20m 小木ノ城山の樹叢中にあるアカイタヤ幹周380cm (1993 出雲町教育委員会発行小城ノ城山の樹叢)よりは小さいが、 杉林中に成育しており、よく伐採を免れたと思われる。
- ・ミツデカエデ:中永小木城川沿い 幹周64cm 樹高8m (写真1)

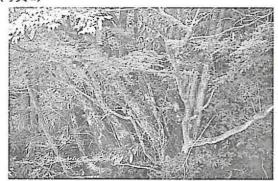


写真1 中永小木城川右岸 ミッデカエデ 2001. 9. 26

西山丘陵では稀産、小木城川の右岸崖上に、株立ち状に11本あるなかの最大のもの。

・イロハモミジ:

①脇野町 長照寺境内 幹周210cm 樹高8cm (写真2)



写真2 脇野町長照寺 イロハモミジ 1996.12.1

②鳥越字松原 (小坂孝一所有) 幹周 205cm 樹高 14m ③上岩井 西照寺境内 幹周 205cm 樹高 14m

いずれも植栽されたもの、①は高雄もみじの言い伝えあり、②は山中であるが以前人家の屋敷内、現在は杉林の中で生育に支障がある。

なお上記のほか、三島町内に生育する野生のカエデ科樹 木は、ウリハダカエデ、コハウチワカエデ、チドリノキ、ハ ウチワカエデ、ヤマモミジがあるが、チドリノキ(蓮花寺 幹周20.5cm)は、小木ノ城山の樹叢中の幹周80cmには及ばないが分布上興味深い。

## その2 メグスリノキの結実

自宅裏山に、1992年に植えたメグスリノキがある。

今年の春、新芽の成長が例年より遅く、葉も小さいのに 気づき、テッポウムシにやられたかと根本を調べたら、苗 木を植えたとき、支柱に結んだビニール紐が、そのままに なっていて、幹に食い込んだ状態になっていた。

もうすでに樹皮も被っていて、引張っても取れないので、 仕方なくそのままにしておいた。

6月にどうなったか見たら、小さな木なのに(樹高 2.6 m。 根回 9.12 cm)種子が多数ついていた(写真 9.4)。



写真3 メグスリノキの翼果 2001.8.29



写真4 メグスリノキにビニール紐がくいこんだ 2001. 8.29

以前津南町穴藤にあるメグスリノキ(津南町天然記念物) の種子の写真を、望遠レンズをつけ苦労して撮ったことが あったが、これは眼の高さなので楽に撮れた。

花の時期を見逃したのが残念であった。

それにしても、大木にならないと種子がつかないと思っていたが、紐で樹皮を締められたたためだろうか。

昔の人が実のつかない柿の幹を、養分の移動を妨げるため、なたで傷つけたというが、これと同じ効果があったのであろうか。

育種の参考になるかと思いここに記した。 なおメグスリノキの種子は、どれを割っても中に実は入っ ていなかった。

雌雄異株で雄株がないのに結実したり、不思議がいっぱ いなので、今後も見守っていきたい。